

NPO、亀山で対策試行

シカ食害 森林守れ

ニホンシカの食害による森林被害が深刻化している。四日市市の森林施業NPO法人「森林の風」(蒲田博会長)は、安上がりな9種類の食害対策を考え、管理している亀山市内の山林で試している。このうち3種類の方法で効果がみられたという。(佐野登)

幹の周囲にテープ・金網 3種類で効果も



①ニホンシカに樹皮をはがされた木。やがて枯れてしまうという②ニホンシカの食害防止効果があったポリエチレンテープを巻き直す「森林の風」のメンバー。いずれも亀山市加太向井



同NPOは3年前から食害対策を試行。このうち、15本のスギの幹に荷造り用のポリエチレンテープをらせん状に巻き付けたところ、どの木にも被害が出なかった。

「クマが木でつめをとぐのを防ぐため、岐阜県や福井県

などで使われていた方法。シカにどうか試してみた」と理事の瀧口邦夫さん(60)。テープを巻き付けることで幹の成長に支障があつてはいけいないので、「一定期間が過ぎたら巻き直しが必要」と話す。

高さ1メートル、幅50センチの金網を幹に巻き付ける方法でも効果があつた。スギ20本で試し、これにも被害はなかった。ただ、金網を巻かない周囲の木の多くが食害に遭ったという。

ほかに、枝打ちしたスギの枝や割った竹を幹に巻き付けたり、使用済みの養殖用ノリ網で400平方メートルほど木を囲ったり、わらで編んだ縄で約400平方メートルを囲ったりしたが、どれも失敗。枝や竹をしばったひもが腐って落ちてしまつたり、ノリ網は破られたりして、食害に遭つた。

理事の桜井龍彦さん(61)は「材料費が安く、機械も使わず、少ない労力で山に持ち込めて設置できることや、付けたままでも自然分解するが容易に回収できるものを試した。クリーンヒットになる対策は見つからないが、これからもいろいろな方法を試していきたい」と話している。

同NPOは2005年から、亀山市の鈴鹿森林組合が所有する同市加太向井の山林約10ヘクタールを管理委託され、ホンダの従業員らと手入れを続けている。当初は食害はなかったが、翌年、スギがニホンシカの食害に遭い、年々被害は拡大しているという。